

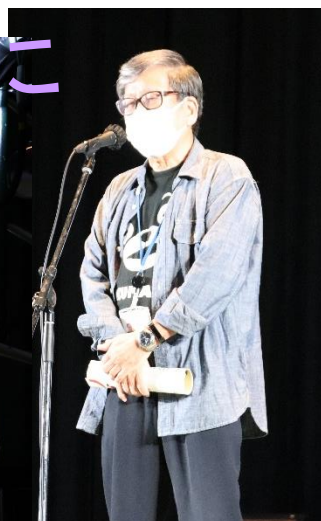
3年ぶりの笑顔

杏 祭

「杏祭」が15日（土）に開かれました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、3年ぶりの開催となりました。今回のテーマは「距離は取っても心は密に」。14日の前夜祭、15日の本祭とも好天に恵まれ大盛況でした。2日間を写真で追いました。

距離は取っても心は密に

クラブ対抗のゲームやクイズで盛り上がったステージ



本祭開会式であいさつする竹屋元裕学長 ▲

奇抜な衣装姿で熱唱する“学生デュオ”。ステージを沸かせました



図書館裏の芝生広場では13グループが模擬店を出店。好天に恵まれ大盛況でした



吹き飛んだ不安 障壁乗り越えた！ 澤本 涼 実行委員長

コロナ禍の学園祭は開催できるかどうか、先がずっと見えませんでした。開催日は見えているけれども、回り道ばかりしているようで一向に開催に近づいている感じがしませんでした。そういった不安が前夜祭を終えて、吹き飛びました。久しぶりに人の盛り上がりを見ることができました。それも大学行事として盛り上がりを見られたの

が良かったです。色々と不備はありましたが、運営の学生たちが楽しそうに取り組んでくれたのもよかったです。コロナ禍での杏祭開催は障壁が多かったですが、乗り越えることができ、いい経験ができました。
(リハビリテーション学科理学療法学専攻2年)



“初めて”の杏祭 学生たちは…

「準備通し友情深まった」 「思いの他の盛り上がり」

3年ぶりの杏祭は、1-3年生にとっては初めての学園祭でもあります。学生の皆さんに感想を聞きました。

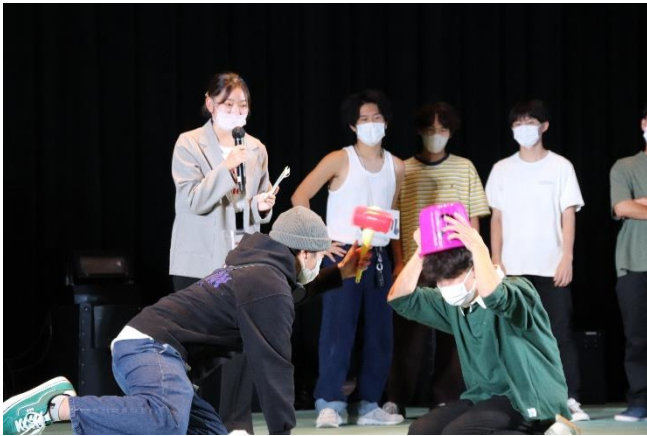
文化展（2号館）でサークル仲間とアロマクラフト体験コーナーを開いた荒川愛華さん（看護学科3年）は、「準備も一からなら、活動も初めて。どうなるか不安でした。そんな中でも部員の皆さんが手伝ってくれ、笑顔で楽しんでくれたのでよかったです」と話してくれました。

一方、同じ生活機能療法学専攻の仲間と唐揚げ店を出店した阿萬翔太郎さん（1年）は「私たちの学年は友人と接する機会が少なかったのですが、準備を通して友情が深まりました」。サークルの仲間と手作りアクセサリーの店を出した増永雅さん（医学検査学科2年）は「初めての学園祭で準備は大変でしたが、思いのほか盛り上がりました」と、声を弾ませていました。

3年ぶりの学園祭のフィナーレを飾った932発の打ち上げ花火



ステージで繰り広げられた
白熱のバトル



前夜祭 点描

前夜祭のステージも、吹奏楽、ダンス、軽音楽で前景気をおおりました



文化展でお点前を披露する茶道部員



難病の子に向け「学内ツアー」

オンライン通しLovers初企画



スマホを使って学内の様子を
中継するLoversメンバー

鹿児島県の自宅でツアー
を楽しむ女子生徒

学内ボランティアサークル「Lovers ～難病患者・家族を支える会」が15日（土）、難病を抱える2人の子どもたちとオンラインで結んだ「学内ツアー」を行いました。

ふだん外に出られない子どもたちに、大学がどんなところか知ってもらおうと初めて企画しました。今回は、Loversと親交のある福岡県と鹿児島県在住の2人の中高校生男女が参加。Loversメンバー11人が交代しながら、講義室や図書館、助産別科実習室などの学内施設をスマートフォンを使って1時間あまり実況中継しました。

代表の山下光さん（医学検査学科2年）によると、ツアーは夏休み前から準備していた

そうです。山下さんは「なかなかメンバーの時間が合わず練習の時間が取りにくかったので、うまくいくか心配でした。でも、子どもたちの『楽しかった』という声を聞いて、やってよかったと思いました」とほっとした様子でした。

一方、自宅から参加した福岡県の女子生徒の家族からは「遠方でも参加できるのはうれしく思います。また次回を期待しています」とのコメントが寄せられました。

Loversは、オンラインによるツアーは今後も続けていきたいとしていて、山下さんは「次回は動物園に行きたい」と話していました。（NL編集班）

私のお薦め記事

（このコーナーはDive! LSP 1年生が担当しました）

コロナ禍 子どもの摂食障害増 生活、コミュニケーション変化 食事リズム崩れ 感染の恐怖も

（2022年9月30日付熊本日日新聞10面）

概要

新型コロナウイルスの影響で子どもの摂食障害が増えている。環境の変化が契機になったと思われる。中には、コロナ感染への恐怖心から、教室で食事が出来なくなり、次第に拒食症になった子どももいる。小児期や思春期の摂食障害は成長に大きな影響を及ぼすため、専門家は、早期対応のための学校と家庭が連携することが重要と説く。（看護学科・黒田 芙蓉）

コメント

新型コロナウイルスの影響で黙食が当たり前となった。黙食を行うことでコミュニケーションを取る機会が減ってしまったため、子どもたちは以前と違う生活を強いられ、大きなストレスがかかっている。そういった問題を解決するためには、食事についての正しい知識を身に付けることが重要だ。また、自らの体を把握し大人の理解も深めることで、食事の大切さや楽しさを知ることが出来る。（リハビリテーション学科理学療法学専攻・高木 大暉）

総合型選抜で入学した1年次生が、日々の新聞や雑誌などから気になる記事をピックアップし、毎週紹介します。これは、Dive! LSPと銘打った教育プログラムの一環です。

◆**チーム医療演習始まる** 今年度のチーム医療演習が13日（木）、アリーナを中心に始まりました。専門分野の異なる学生同士がグループを組んで症例検討を行うことにより、相手の考えや立場の違いを理解し、チーム医療を行うために必要な相互理解を学ぶことを目的に実施されます。全学科専攻の4年次生が5週間にわたって取り組みます。最終回の11月10日（木）には50周年記念館と1300講義室Lで発表会が実施されます。（安部悠介）

◆**中学生が本学訪問** 玉名高校附属中学校の生徒40人が12日（水）、本学を訪問しました。大学についてより具体的なイメージを持ち、日頃の学習に活かそうと、同校が企画したものです。生徒たちは、1303講義室Mで昼食を済ませた後、入試・広報課員から大学の

概要と学部学科の概要の説明を受けました。引き続き南部雅美医学検査学科長による細胞検査士の仕事について模擬講義を受け、最後はレストラン、図書館エリアとアリーナの健康・スポーツ教育研究センターを見学しました。（入試・広報課）



南部学科長の模擬講義を受ける中学生たち

インフォメーション

週間行事予定（10月22日～10月28日）

10 / 22（土）

総合型選抜